

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	海の見えるグループホームしおさい		
所在地	山口市秋穂西3317番地の1		
電話番号	083-984-5656	事業所番号	3590300038
法人名	株式会社 V A N		

訪問調査日	平成 21 年 1 月 16 日	評価確定日	平成 21 年 3 月 13 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	15 人	常勤 9 人 非常勤 6 人 (常勤換算 11.8 人)	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	~	1 階部分

(3)利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家 賃	月額	48,000 円	敷 金	無	円
保 証 金	有	180,000 円	償却の有無	有	
食 費	朝食	350 円	昼食	550 円	
	夕食	300 円	おやつ	67 円	
その他の費用	月額	17,000 円			
	内訳	光熱水費			

(4)利用者の概要 (1 月 15 日現在)

利用者数	15 名	男性 4 名	女性 11 名
	要介護 1	9	要介護 4 1
	要介護 2	4	要介護 5
	要介護 3	1	要支援 2
年齢	平均 79.9 歳	最低 69 歳	最高 93 歳

(5)協力医療機関

協力医療 機 関 名	医科 吉武医院 歯科 佐川歯科医院
---------------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)
栄養バランスのとれた食材の宅配サービスを利用し、三食とも事業所で利用者と職員と一緒に調理して、同じ食事を共に食べながら楽しめるよう支援されています。ちぎり絵、習字、囲碁、将棋などをしたり、ピアノの生演奏に合わせて童謡や懐メロを歌うなどの楽しみごとや、調理、食事の準備、後片付け、広い庭の草取り、掃除、洗濯物を干したり、取り込んだり、たたんだり等々、利用者一人ひとり活躍できる場所がたくさんあり、気ばらしや生きがいにつながる支援をしておられます。
(特徴的な取組等)
かかりつけ医への受診の送迎や付き添いをし、訪問診療を受け入れ、利用者が適切な医療を受けられるよう支援されています。利用者や職員は2ユニット間を自由に行き来し、レクリエーションは、本人の好みの趣味の方に参加でき、活動の輪が広がり、利用者同志が楽しく交流されています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)
外部評価結果をミーティングで話し合い、理念を全職員で検討・作成や、地域行事への参加、研修の実施、食材宅配(業者の栄養士の献立)を利用した栄養バランスのよい食事の提供等、具体的に改善に取り組まれています。
(今回の自己評価の取組状況)
評価の意義を理解しておられ、自己評価表を全職員に回覧して、それぞれが自由に記入されたものを、そのまま評価とされています。
(運営推進会議の取組状況)
各ユニットから1名ずつの利用者と家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、交番署員、運営者、管理者、職員等のメンバーで2ヶ月に1回開催されています。事業所の状況報告、外部評価結果報告等をし意見交換をされています。参加者からの提案で警察のブラスバンド大会に見学参加したり、地元の保育園児の訪問等、サービスに活かしておられます。
(家族との連携状況)
毎月請求書の送付の時、個別に利用者の近況報告をし、ホームだよりを2ヶ月に1回発行し、行事や暮らしぶりを写真とコメントで報告されています。面会時にも伝えたり、家族から意見を聞くように努めておられます。カンファレンスや事業所の行事にも家族の参加があり、遠方の家族には利用者個人の写真を送る等工夫されています。
(地域との連携状況)
散歩や馴染みの店への買い物時には、地域の人からの声かけがあり、近所の人から花や野菜の差入れがあるなど交流されています。また、自治会にも加入され、溝掃除に職員と利用者に参加されています。保育園の運動会への参加やブラスバンド大会への参加をされたり、保育園児の事業所訪問や事業所のまつりに地域の人に参加されるなど、交流をされています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「人と自然に恵まれた住み慣れたこの地で共に寄り添い、今までの暮らしを継続・延長する」という理念を全職員でつくりあげている。	
2 (2)	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝のミーティングで理念について話し合い、読み上げ、地域の中でどう生きていくかを職員で考え、共有し、地域との関係性が深まるよう日々理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	散歩や馴染みの店への買い物の時には地域の人からの声かけがあり、近所の人から野菜や花などの差し入れがあるなど交流している。自治会に加入し、溝掃除に職員と利用者が参加している。保育園の運動会への参加やプラスバンド大会への参加、保育園児が事業所を訪問したり、事業所の「まつり」に地域の人々の参加もあり、交流している。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、自己評価表を全職員に回覧して、それぞれが自由に書き込んだものを、そのまま評価としている。まとめや確認ができていないため、全職員の理解や共有するまでに至っていない。前回の外部評価の結果はミーティングで話し合い具体的な改善に取り組んでいる。	○ ・自己評価のまとめと全職員での共有
5 (10)	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	各ユニットから1名ずつの利用者と家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、交番署員、運営者、管理者、職員等のメンバーで、2ヶ月に1回開催している。事業所の状況報告、外部評価結果の報告等をし意見交換をしてサービスに活かしている。	
6 (11)	○ 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括支援センターに相談するなどしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組みを期待 したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月請求書の送付のとき、個別に利用者の近況報告をし、ホームだよりを2ヶ月に1回発行し、行事や暮らしぶりを写真とコメントで報告している。近くの家族には面会時にその都度伝えている。遠方の家族にはホーム便りの他、個人の写真を送付する等の対応をしている。	
8 (18)	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の訪問時に声かけしたり、電話連絡等で、気軽に意見や苦情が言えるようにしている。事業所の苦情相談窓口、担当者、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを定めている。第三者委員の選任はしていない。意見箱の設置もしている。	○ ・第三者委員の選任
9 (20)	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	2ユニットで15名の職員を確保し、利用者の状況の変化や要望に柔軟に対応している。職員の急な休みのときは、管理者や職員同士で勤務調整に努めている。	
10 (21)	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。離職者があった時は、管理者や他の職員でカバーし、新しい職員が慣れるまでは複数で関わりを持ってケアするなど利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修には管理者や常勤職員が参加している。ミーティング時に内部研修をしている。経験年数等に応じた段階的な研修はしていない。	○ ・段階的、計画的研修の実施
12 (24)	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市介護サービス提供事業者連絡協議会に参加し、研修、交流などを通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居の申し込みがあれば、自宅や施設を訪問し、本人や家族と面談したり、ホームを見学してもらい、お茶を飲んでもらったりして馴染めるよう工夫している。併設のデイサービス利用者が入居することもある。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	食事の準備や調理、後片付け、洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除や草取りと一緒にしながら、職員は利用者から野菜の切り方や味付けを教わったり、昔のことを話してもらったり、支え合う関係を築いている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を活用して生活歴等を把握し、日々の関わりの中から利用者の言葉を聞きとったり、表情を読み取ったり、家族から情報を得るなどしている。困難な場合は、職員間で話し合い本人本位に検討している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	○チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月に1度カンファレンスを開催し、利用者に関わる課題を話し合っている。計画作成担当者が中心となり、モニタリングを行い、課題やケアについて、本人、家族、関係者で話し合って介護計画を作成している。介護計画に対する家族からの要望を文書でも受け取っている。	
17 (42)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	1ヶ月ごとに評価し、3ヵ月ごとに見直している。利用者に状態の変化があったときには、本人、家族、関係者で話し合っ、現状に即した新たな介護計画を作成している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	受診の送迎や付き添い、買い物、自宅訪問など外出の支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医への受診の送迎や付き添い、訪問診療の受け入れ支援など適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居契約時に口頭で説明している。現在、重度化や終末期に向けた方針を検討中である。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	ミーティングやケアカンファレンス時に言葉かけや言葉づかいについて話し合い、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねないように配慮している。記録等の個人情報はロッカーに保管している。	
22 (59)	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床、睡眠、食事時間、入浴など、その時々で利用者に合わせた支援をし、その人らしい暮らしができるよう、一人ひとりのペースを大切にしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材の宅配サービスを受け三食ともホームで調理している。利用者も一緒に調理、味付け、配膳、片付けも行い、職員も同じ食事を一緒に食べながら、楽しい雰囲気になるよう支援している。	
24 (64)	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴はユニット交互に沸かし、隔日、14時～17時頃まで可能であるが、希望や必要に応じて毎日の入浴もできるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
25 (66)	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ちぎり絵、習字、囲碁、将棋や管理者のピアノ演奏に合わせて童謡、懐メロを歌うなどの楽しみごとや、食事の準備、テーブル拭き、後片付け、洗濯物を干したり、たたんだり、掃除、草取りなど、活躍できる場面をつくり気晴らしや生きがいにつながるよう支援している。		
26 (68)	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物、地域の中をドライブしたり、公園や山などへのドライブなど、外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
27 (74)	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	抑制や拘束のないケアのあり方について全職員が正しく理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
28 (75)	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の外出の癖や傾向などのパターンを把握し、出ていく様子がある時は職員と一緒に行動するなどし、鍵をかけないケアに取り組んでいる。玄関前の道路は大型の工事車が通っており、時間帯によっては、短時間の施錠をしている。		
29 (78)	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリはっと報告書を記録し、改善策を話し合い、全職員で共有しており、一人ひとりの危険性や支援方法を把握し、介護計画に反映して事故防止に努めている。		
30 (79)	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し内部研修をし、急変や事故発生に備えているが、応急手当や初期対応の定期的な訓練はしていない。	○	・全職員が対応できるように、日頃からの訓練や定期的な訓練の実施
31 (81)	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	夜間の火災発生を想定した避難訓練を消防署の協力で実施し、利用者も参加している。地域に協力を得る働きかけをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
32 (84)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬管理表、服薬チェックシートがあり、薬の説明書は個人記録簿と一括ファイルに綴じて、職員がいつでも確認できるようにしている。薬はその都度手渡しし服用を見届けている。必要な情報は医師にフィードバックしている。		
33 (86)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後一人ひとりに声かけをし、個々に応じた口腔ケアの支援をしている。歯ブラシや義歯などの清掃、消毒、保管について支援している。		
34 (87)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分摂取量を記録し把握して、一人ひとりに合わせた支援をしている。宅配食材を利用しているので、業者の栄養士が立てた献立で、栄養バランスのよい食事を提供できるよう工夫している。		
35 (88)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルがあり、全職員で学習し、手洗いやうがいなど予防を実行している。予防接種は職員利用者全員が実施し、手すり等毎日消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
36 (91)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	居間や台所は南側の海辺に面しており、日当たりも良く、畳の間やソファがあり、利用者が穏やかに居心地よく過ごせるよう支援している。壁には利用者の作品(書、貼り絵)や写真が飾られ、季節の花が生けられ、調理の音や匂い等、生活感や季節感が感じられるよう工夫している。		
37 (93)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には大きな押入れがあり、家から持ち込んだ物が整理され、タンスや洋服掛けなどの使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれ、人形や花が飾られるなど本人が居心地よく過ごせるように工夫している。		

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	海見える776-70ホーム（おさい）
所在地	山口市秋穂西3317-1
電話番号	083-984-5656
開設年月日	平成19年6月1日

【サービスの特徴】

【実施ユニットの概要】（1月1日現在）

ユニットの名称	西棟			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 2名	女性 7名	
	要介護1	7	要介護4	1
	要介護2	1	要介護5	
	要介護3		要支援2	
年齢構成	平均 81.2 歳	最低 67 歳	最高 93 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	各棟毎に計画作成担当者を中心として作成。
評価確定日	平成21年1月1日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1) <u>〇地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	昨年、理念の書き換え、毎日読み合わせをしている。	〇	少し短かくしたい。
2 (2) <u>〇理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	94条と共に読み合わせしている。 事例との関連を説明。		
3 <u>〇運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	事務所内に掲示。		
4 <u>〇運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	管理者とケアマネを囲んで ミーティングを行なう。	〇	個々の入居者のケアプラン を検討したい（全員で）
5 <u>〇家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	玄関口には 目立度で掲示。		
2. 地域との支えあい			
6 <u>〇隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	祭りを行なっている		
7 (3) <u>〇地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	保育園の運動会とアラスパールの演奏へ参加。（運営推進会議での誘い）		
8 <u>〇事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	祭りは、昨年に比べて盛況だった。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
10 (5)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。		
11 (6)	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	○	今後、研修にて欲し
4. 理念を実践するための体制			
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
16 (7)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 〇情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	要取が取れるように 開示が可能である旨の文書と掲示している		
18 (8) 〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	定めている		
19 〇運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングの回数が増えた	〇	
20 (9) 〇柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	社長は、隣に、施設長は車で20分の所に 居住し、いつも連絡が取りやすいである。		
21 (10) 〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。			
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修を実施している		
23 〇職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。			
24 (12) 〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		〇	他施設の様子、取組みが 知りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ミーティングでは、議題は自由に(あり)自由。	宴会があれは……
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	時間がある限り努力をします	なるべく初めに連絡をとりたい。
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	//	//
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	通って泊まった後、という提案をしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	取組むべき点として、このように行いたい。	取組むべき点として、このように行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		最近の様子、時々
34	〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	〇	近所、公園、 あ、ー、から散歩、犬
36	〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	〇	トータルにやるが、話し合ってる (スタッフ間)
37	〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		その人らしく生活する
40	〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	〇	毎日、どうやって暮らしているか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
41 (16)	〇チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプランに組み込まれたい採納事項も 極力、相俟する採納している。		
42 (17)	〇現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に見直しを行い必要に応じて見直しを行っている。		定期的に見直しを行っている。
43	〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録している	〇	各チームで記録している
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
44 (18)	〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	御家族と 受給先で合流してお話を聞く時もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
45	〇地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。			
46	〇事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	保育園からの訪問がある。		
47	〇他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	訪問医師		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○ <u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	○ <u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	訪問 6名、通院 3名
50	○ <u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	○	必要時 関心あり
51	○ <u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	○ <u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	○ <u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	○ <u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	○ <u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	○	ケアリー

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	<u>〇プライバシーの確保の徹底</u> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。		
57	<u>〇利用者の希望の表出や自己決定の支援</u> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		後の記録(22)は付録2の
58	<u>〇“できる力”を大切にしながら家事への支援</u> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	〇	昨日17日夕方に行なった 次回コンビニへお出かけ 日に1回と決まっている
59 (22)	<u>〇日々のその人らしい暮らし</u> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	〇	今後お取りぐんで行く
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<u>〇身だしなみやおしゃれの支援</u> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	〇	家族から外へ美容院に出かけられるように努めている
61 (23)	<u>〇食事を楽しむことのできる支援</u> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	〇	リンゴなど果物はアレルギー スニター・食生活行なっている
62	<u>〇本人の嗜好の支援</u> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	〇	クリスマス会、誕生会、行事 取り組みにしている
63	<u>〇気持ちのよい排泄の支援</u> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	〇	食事前 排便の記録

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	〇	
65	〇安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	〇	金銭の確保（おカ）など
68 (26)	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	〇	夜間、ドライブ、山取りなど 施設に示し、外出、しつこく
69	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	〇	年賀状を寄、しつこく
71	〇家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	〇家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	〇家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	しおいまつり	
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27)	〇身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	全員と話し合う。	全員を目指している。
75 (28)	〇鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	通路の面について施設している	
76	〇利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者と家族との関係性を重視し、利用者の安全を確認している。	
77	〇注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者ごとの状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。
78 (29)	〇事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット、事故の各報告書と、各日の経過表とを参考にしている。	
79 (30)	〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急通報のシステム。それ以前に判断についてミーティング時に話題としている。	
80	〇再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や「ヒヤリはつと報告書」等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	朝の朝礼、ミーティング等で報告。その際、職員同士で意見交換。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難者と避難場所を毎月実施		
82	〇リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	朝の朝礼・ミーティングでの報告。 業務日誌・個人記録での記載。 夜勤者の体調の申し送り。		
84 (32)	〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	一覧表を作成し、変更の度に更新して、各棟へ配布する措置。		
85	〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便の状況を確認し、必要に応じて水分や食物繊維の摂取を促す。		
86 (33)	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	歯磨きの指導や補助、歯磨き粉の提供、口腔ケアの指導などを行う。		口腔ケアの指導や補助、歯磨き粉の提供、口腔ケアの指導などを行う。
87 (34)	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量の確認や、水分の摂取を促す。		
88 (35)	〇感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	インフルエンザ予防接種を実施。		
89	〇食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	乾燥機の使用。残さず完了するようにする。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		
91 (36)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		・利用者と一緒に飾り付け(クリスマスツリー) ・季節・配置を随時変えていく ・生け花を得意とする利用者により行われている
92	〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		ソファの位置、テーブルの席など 座る位置や向きなどをよく考えている
93 (37)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		個室で使われていた家具を共有スペースにする
94	〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		対応している
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。		足元や手すりなど安全な環境を整えている
96	〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。		居室内の整理 ベットの活用による1人1室の確保
97	〇建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。		東のテラスで朝日、夕方は月など 出入り自由で海もあるようにしている

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1／3くらいの	②利用者の2／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1／3くらいと	②家族の2／3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1／3くらいが	②職員の2／3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1／3くらいが	②家族等の2／3くらいが ④ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	海が見える716-70ホーム（おとし）
所在地	山口市秋穂西 3317-1
電話番号	083-984-5656
開設年月日	平成19年6月1日

【サービスの特徴】

【実施ユニットの概要】（ / 月 / 日現在）

ユニットの名称	東棟			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	8名	男性 2名	女性 6名	
	要介護1	3	要介護4	0
	要介護2	4	要介護5	0
	要介護3	1	要支援2	0
年齢構成	平均 78.3 歳	最低 68 歳	最高 86 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	各棟毎に計画作成担当者を中心として作成
評価確定日	平成21年 / 月 / 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	<u>〇地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	〇	「理念」をもっと短かく。
2 (2)	<u>〇理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		一勤務体制で、不機嫌な状態である方が多い。体調不良の人、退職者、その人にかかりきり、又、関わりきらないでは、後継者の生活は出来ているかと思える。その点。
3	<u>〇運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	<u>〇運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		勤務体制の充実(フリーかひとりいるとか)モルタリング担当者だけでなく、ミーティングの際にでも、問題点などの意見交換などする必要があるのでは？
5	<u>〇家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
6	<u>〇隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	<u>〇地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	<u>〇事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		ケーシ等をもっと増やして、入居者と楽しくやり取り。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○<u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		あせうないように（ない）。
10 (5)	○<u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。		方向性は合っていると思うので、進めてゆきたい。
11 (6)	○<u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
12	○<u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		している。（成年後見人制度は、現在1名か利用している。）
13	○<u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	○	今後施設内研修等、勉強していきたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	○<u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		面会の少ない家族にはケアプランを送付する際にも、時間を作って顔を見合わせるなどの便りを同封している。
15	○<u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		苦情受付箱を設置している。
16 (7)	○<u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。		ケアプランの説明及び突発的な急変等家族と連携を取っている 金銭に付いた（1回）お知らせしている
管理者には病院での治療、療養が必要と思われる入居者の家族には、事情があるかも知れませんが、年数回入居者の所へも考えていただきたいこと伝えてほしい。			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	〇情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。 要ねか、あいつ、あじという。 その旨の文書を掲示している。		
18 (8)	〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。 定めという。	○	家族交流会等開催し 家族が自由に意見と 言える場を設けた。
19	〇運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 ミーティングの実施		
20 (9)	〇柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。 管理者は車で20分所へ居住。 運営者(取締役社長)は施設隣に居住。		
21 (10)	〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 施設内研修を実施している。		
23	〇職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	○	各年代別の配置を 目指している。
24 (12)	〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○	現状 外部研修だけでなく 交流もないので是非 実施したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<u>〇職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		職員同志の人間関係の充実
26	<u>〇向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		上記が満たされていないと入居者は不安を抱かせる
27	<u>〇職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<u>〇初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	時間があれば 聴く努力をしている	週に1回とも 個別に面談の機会を確保する
29	<u>〇初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	〃	〃
30	<u>〇初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要があれば ケアプランの変更も実施している	
31 (13)	<u>〇馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族によります 相談に応じてから 全任せする という家族が多い	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<u>〇本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一方的に '行う' 常に利用者と 共に 行うことで 念頭に置いている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には 近況等 伝へ コミュニケーション取っている		
34	〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	兄弟間へ 争議 がある様々 家族には 注意を払っている		
35	〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	居室変更等は 減勢に 行われていよう に 努めている。		
36	〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	集団生活への 争い があるが、職員が 割りこみ する 努力 している。		
37	〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	その後の 相談 等 には 対応 している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その様に 実施 している。		
39	〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	特に 生活歴 については 注意 して 努めている。		
40	〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の心身状態の把握には 不安 がある		常に 毎日 居室を 訪問 する 様に している。 実施 出来 ている。

実施出来ず様々に取り組むた。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	〇チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。		金銭も必要とある場合は 特に家族の負担を取り入れる
42 (17)	〇現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		更新期間はあるのか どの経過も記録しから 行っている
43	〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		記録している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		訪問診療も当施設職員による通院もあるが、受診先で 御家族と合流する事も多い。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	〇地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		通達推進会等 等には 参加もしている。
46	〇事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等）。		申し込めば 受け入れる
47	〇他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		。訪問歯科 診療 等 利用している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	〇地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	〇認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	〇看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	〇早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		終末期のあり方について施設としては終末期ケアを実施している。今後の課題
54	〇重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		〃
55	〇住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	〇プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。		言葉使い研修や記録の書き方研修も行うという
57	〇利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		
58	〇“できる力”を大切にしたい家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。		
59 (22)	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		
61 (23)	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。		
62	〇本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。		
63	〇気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		紙パンツにはパンツのみならず 普通の下着にパンツ また Tシャツの方もあり フラットもズボンも

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は隔日と決めている。突発的な欠席や外出等による発汗には対応している。		
65	〇安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	その様に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。			
67	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理が可能な方には所持してもらっている。		
68 (26)	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	全ての希望は叶えられるのか、散歩ドライブは実施している。		外出行事など計画可視化
69	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族と共に出かける方は限られているが、利用者同士のドライブはよく出かける。		
70	〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	その様に対応している。		
71	〇家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	特に制限することなく気軽に訪問出来る体制にはある。		
72	〇家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	その様に対応している。 （家族のみ対象者がいる（米川さん））		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73 〇家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	秋の祭りに家族の参加も促している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27) 〇身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束（スピーチロックやドラッグロック）を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	一部のスタッフは理解しているが全体的には理解していない。		施設内研修等行っており全員のスタッフの共通理解を目指している。
75 (28) 〇鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	建物の前の道路はデンプが通るので鍵をかける。		
76 〇利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室の訪問を徹底しているがなかなか出来ていない。		
77 〇注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	使用する時のみ出し終わった後回収するようにしている。		
78 (29) 〇事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットの記録等事前の事故防止に努めている。		
79 (30) 〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急救車を呼ぶ手順はマニュアル化しているが応急手当等は行っていない。		急救の手当研修も行った。
80 〇再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や“ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ヒヤリハット報告書は記録しているが改善策を書く人が限られている。		全員に意見を書かせるという取り組みもある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	〇リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	〇体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	〇服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	〇便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		口腔ケアの後、個人用のハブラシを袋に入れて本人のロッカーへ納めているがチェック
87 (34)	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	〇感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	〇食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。 駐車の場は 月曜夜間以外は 開放されてあり 安心して 出入り 出来る 環境 になっている。		
91 (36)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。 季節の花を 配置 する 等 工夫 している。		
92	〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 ソファー、タタミ、自由に 座れる 場所を 用意 している。		
93 (37)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 入居時には 使い慣れた 物を 持ち込んで 使うように お願い している。		
94	〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。 エアコンは 嫌いな人もあり 個人別に 対応 している。		起床後は 窓を開けて 換気を している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。 手すり等を 設置し、自立した 生活が 送れる 環境 を整えている。		
96	〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。		
97	〇建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。 ベランダは 出入り 自由 となっている 広い 駐車場で 歩行訓練 出来る 等 あり バンチも 配置 している。		

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1／3くらいの	②利用者の2／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1／3くらいと	②家族の2／3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1／3くらいが	②職員の2／3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1／3くらいが	②家族等の2／3くらいが ④ほとんどできていない